

わーく&らいふ

令和2年12月11日 進路指導部 発行

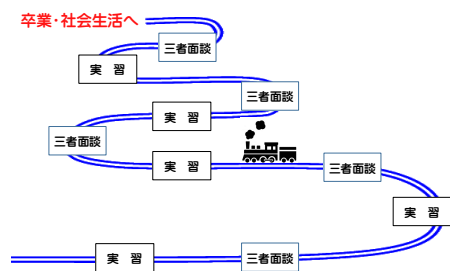
■CONTENTS■

「就業体験」は、社会に開かれた教育活動
実習先（社会）から持ち帰った課題より～高等部2年「現場実習」～



実習の一コマ（左：企業 店舗実習、中央：B型 調理補助、右：A型 洗濯）

現場実習の意味とは。



「わーく&らいふ第5号」では、現場実習（一般学級）や施設体験（重複障がい学級）などの「就業体験」が、進路決定に向けて重要な学習であることをお伝えしました。

実は「就業体験」には、進路決定以外にも、更に重要な意味があります。今回は、一般学級の現場実習を例に、実際の社会で行う「就業体験」の意味について考えてみましょう。

■現場実習は駅のようなもの

現場実習は、例えるなら「駅」のようなものと考えています。生徒たちは学校生活から離れ、教育カレンダーの中に定期的に配置した「駅（現場実習）」で、いったん立ち止まりさまざまな体験を積みまします。

実習先には、生徒の姿を通し、教育や子育てで身につけたさまざまな「力」に関して、社会の視点での採点（客観的評価）をお願いしています。

実習後の三者面談は、客観的評価を踏まえて、「目的地（進路希望）」はこのままで良いか。「乗り換え（進路変更）」が必要か。「目的地（進路）」を目指すための今後の教育や子育ての課題は何か。」をじっくり考えることのできる、またとないチャンスと考えられます。

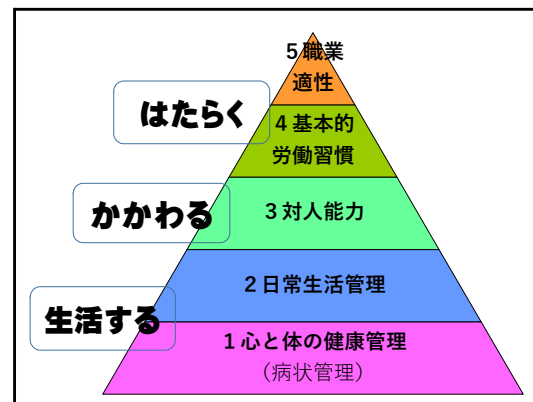
■実習の反省は「はたらく」「かかわる」「生活する」の視点で

「しごとにつく」際に必要とされる力は、優先順に右図のようになっています。これは障がいがあってもなくてもかわりません。

また、5つの力はピラミッド構造になっており、下（土台）ほど、重要で優先度が高いことを表しています。たとえば、手先が抜群に器用で作業力が高い人でも、生活リズムが整わず、定時に通えなければ仕事に就くことが難しい、あるいは長く続けることが難しいということです。

そこで、本校では、現場実習の目標づくりや振り返りの視点として、「はたらく」「かかわる」「生活する」の3つの要素を用いています。

最後に、今回2年生が実習後にたてた「今後の目標」から、ピラミッド構造の最も重要な基礎部分1「心と体の健康管理」2「日常生活管理」に関連した目標をご紹介します。「将来必要になることは、今からやっておくべきこと。」どうぞお子様のこれからの生活の参考になさってください。



【規則正しい生活】

- ・毎日登校する。
- ・規則正しい生活をする（生活リズムを守る。）
- ・時計を見て 5分前行動をする。
- ・朝、自分で起きる。（目覚ましの音で自分で起きる。）

【健康管理】

- ・体調がわるいときに自分からすぐに言うようにする。
- ・体調管理を改善するようにする。

【身だしなみ】

- ・髪の毛の長さを意識して、整えるようにする。
- ・手洗いや身だしなみに気をつける。
- ・場に応じた服装をする。

【食生活】

- ・ちゃんと噛んでご飯を食べる。
- ・食事の量を増やす。好き嫌いをなくす。
- ・朝ご飯をしっかり食べる

【家事・手伝い】

- ・家の手伝いをがんばる。
- ・家族の役に立つことを自分で考えて行動する。
- ・自分で出来る手伝いに取り組む。
- ・洗濯に挑戦する。

【その他】

- ・気持ちの切り替えを早くする。
- ・忘れ物をしない。

【編集後記】

現場実習後に高校生が考えた「今後の目標」は、どうしても「できていないことを身につける」「改善すべき点を直す。」視点に立ちます。生徒自身が、進路に向かうに当たって自覚してもらうことが最も重要だからです。しかし、実際の教育や子育てに当たっては、これに「いいところを伸ばす」視点を加える必要があります。これは人間が成長する際の大事な要素となるものです。肝に銘じておきましょう。（谷口）

